



委員会等活動成果

国際関係委員会 欧州調査部会

“The Actuary”の記事紹介

Pick Up

英国アクチュアリー会月刊誌「The Actuary」2003年12月号から

2003年12月25日

最も偉大な英国アクチュアリーは誰か？

『過去、現在を通して最も偉大な英国アクチュアリーは誰か』を決めるコンテストが「The Actuary」誌上で2003年3月号から実施されてきた。英国アクチュアリー会会員の投票で決めるという試みで、その最終結果が12月号で発表された。

選考方法の概要は次の通りである。まず、第1段階として、4つの部門で総勢150名の候補者がノミネートされた。候補者は故人だけでなく現役の方も含まれていた。4つの部門とは、①初期のアクチュアリー学の発展 ②最近のアクチュアリー学の発展 ③事業の健全な発展 ④新分野の開発であった。英国アクチュアリー会会員は、1位に10ポイント、2位から5位にはそれぞれ7、5、3、1ポイントを付与して5名まで投票を行った。投票結果にもとづいて、各部門6名ずつが選抜された。次に、第2段階として、6月号から毎月、各部門6名ずつの紹介記事が掲載され、それをもとにして投票を行い、4名の代表が決定された。この段階まで残ったのは、①18世紀末から19世紀初頭にかけてエクイタブル社で科学的保険料やリバージョナリーボーナスの導入に貢献したウィリアム・モーガン ②イミュナイゼーションの理論で有名なフランク・レディントン ③19世紀に活躍し英国アクチュアリー会の創設者の1人でもあるウィリアム・トーマス・トムソン ④資産評価の厳格化を提言したアンドリュー・スミスであった。そして、最終段階として、4名による決戦投票が実施された。獲得した投票割合は、レディントン52%、スミス40%、モーガン6%、トムソン2%となり、見事レディントンが最も偉大な英国アクチュアリーということになった。

ここでは、そのレディントンの略歴を簡単に紹介いたします。1906年、英国北部のリーズで店員の息子として生を受けた彼は、幼いころリューマチに苦しみ学校を休みがちだったが、非凡な数学能力から奨学生としてケンブリッジ大学に入学した。そこでトライポス(数学優等試験: Tripos)を受けラングラー(優等者: Wrangler)となったが、研究成果に目を見張るものがなく、アクチュアリーを目指すこととなった。1928年、プルデンシャルに入社した彼は、1934年にアクチュアリー会正会員となり、1945年にアシスタントアクチュアリー、1951年にチーフアクチュアリーとなった。アクチュアリー会では、試験委員を皮切りに、CMI(継続死亡率調査委員



会)委員長、アクチュアリー会会長を歴任した。プルデンシャルでは、戦後、事業展開している各国において、保険料率の改訂、収益評価手法の導入を行い、チーフアクチュアリーになってからは、各国の配当の差別化、有配当年金の導入、消滅時配当の創設を行なった。これらの輝かしい功績に対して、1968年の退職の際に、アクチュアリー会からゴールドメダルが授与された。2児の父親でもあった彼は、常に家族への感謝を忘れず、退職後も持ち前の探究心から幅広い領域で研究活動を行い、1984年に78歳でその生涯を閉じた。

なお、会報別冊第132号にレディントンの「The Flock and The Sheep and Other Essays」(1981年)の翻訳(外国文献研究会)が掲載されております。剰余金の分配について、随筆調で書かれておりますので、興味のある方は参考にされてはいかがでしょうか。

原文をお読みにになりたい方は英国アクチュアリー会のHPをご覧ください。

<http://www.the-actuary.org.uk/>

SPECIAL FEATURE "The Greatest British Actuary Ever / The Result"